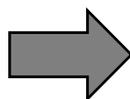


## 浅間山の噴火警戒レベル判定基準の主な変更点

最近の事例等に基づき、噴火警戒レベル3及び2の判定基準を見直しました。

## 現行

レベル	当該レベルへの引上げの基準
3	<p>【中噴火の可能性、特別な防災対応が不要な状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明瞭な火映の発生</li> <li>・レベル2の状態<strong>で強度2以上の火映を観測</strong></li> <li>・ごく小規模な噴火が継続的に発生</li> <li>・火山活動の高まりを示す変化がみられる中で小噴火が発生</li> </ul>
2	<p>【小噴火の可能性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マグマ蓄積に伴う山体の膨張を示す地殻変動 GNSS 観測などによって西山麓地下を中心としたゆっくりとした膨張が観測され、噴煙量や地震活動などのデータに高まりが見られる。</li> </ul> <p>(追加)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごく小規模な噴火が発生</li> </ul>
	当該レベルからの引下げの基準
2	左欄の現象が観測されなくなって概ね1ヶ月経過後 (追加)



## 改定後

レベル	当該レベルへの引上げの基準
3	<p>【中噴火の可能性、特別な防災対応が不要な状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・明瞭な火映の発生</li> <li>・レベル2の状態<strong>で肉眼で観測できる程度の火映を観測</strong></li> <li>・ごく小規模～小噴火が継続的に発生 (概ね 20 回/24 時間または概ね 30 回/30 日)</li> </ul>
2	<p>【小噴火の可能性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マグマ蓄積に伴う山体の膨張を示す地殻変動 傾斜計や GNSS 観測などによって西山麓地下を中心としたゆっくりとした膨張が観測され、噴煙量や地震活動などのデータに高まりが見られる。</li> <li>・<u>火道閉塞を反映する地震活動の急変</u> 以下のような地震回数の急変が同時期に発生 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ BL 型の日地震回数が前1ヶ月平均で概ね 25 回以上観測される中で、BL 型地震回数が急減</li> <li>➢ 微小地震を含む BH 型地震の急増 (「急減」及び「急増」は、地震の前1ヶ月平均日回数に対する前3日間平均日回数の比が、それぞれ、概ね 1 割まで減少及び概ね 1.7 倍まで増加すること)</li> </ul> </li> <li>・ごく小規模な噴火が発生</li> </ul>
	当該レベルからの引下げの基準
2	左欄の現象が観測されなくなって概ね1ヶ月経過後 <u>ただし、火道閉塞を反映する地震活動の急変によりレベルを上げた後噴火が発生しなかった場合は、火道閉塞が解消されたと推定されてから概ね2週間経過後</u>

この他、各基準の記載の体裁なども見直しました。